



profile

昭和51年11月11日生まれ。甘い物（お菓子）が大好き。温泉2区在住。43歳。

お客さんが安心して泊まれる
楽しい場所を作りたい

Spotlight

スポットライト



洞爺湖温泉にゲストハウスを開業

小林圭子さん

「洞爺湖の景色が忘れられなくて、移住することを決めました。洞爺湖はいつも美しく、見守っていてくれるような感じがします」

洞爺湖の魅力について話すのは、洞爺湖温泉地区にゲストハウスの開業を目指す小林圭子さん。

小林さんは旭川市の出身で、札幌市の専門学校を卒業後、24歳のときに就職のため名古屋市に移り住み、お菓子屋さんを経営していました。

映画「しあわせのパン」を見て、洞爺湖に興味を持ち、7年前に洞爺湖町へ遊びに訪れました。名古屋に戻ってからも、その時の思い出が忘れられず、洞爺湖の近くに住みたいという想いが強くなり、平成30年8月に移住。現在は、ゲストハウス「ポンコタン」（アイヌ語で「小さい集落」の意味）の開業に向けて楽しく準備を進めています。

ゲストハウスとは、同じ部屋に複数人が宿泊することで

宿泊者同士の交流ができることなど、一般的な宿泊施設とは違う楽しみ方ができます。ゲストハウスを始めようと思ったのは、「空き家だった建物を借りることができたとやDIY（自分自身で生活に必要なものを作ったり、家のプチリフォームなどをすること）に興味があったので、自分たちの手で何かを作ってみてみたかったからです」と話します。

「ここに宿泊してもらい、この場所を拠点として、洞爺湖町の美しい景色や地元人の温かさ、暮らしなど、自身が体験したさまざまな魅力を体感して欲しい。宿泊者自身がアンテナを張って、洞爺湖の魅力を探してもらいたい」と言います。

最後に小林さんは「安心して泊まれる楽しい場所を作りたい。この場所を通して、お客さんが地元の人とのつながりを作ってもらうことで、地域の活性化に貢献していきたい」と意気込みを語ります。

東奔西走

各地域で冬まつりが行われ、取材に行ってきました。洞爺湖温泉の冬まつりはとても寒さが厳しい中での取材でしたが、そんな中でも恒例となっているかき氷早食い大会が行われ、その姿に元気もらいました。(C.K)

文化財防火デーの取材をしてきました。消火訓練を間近で見て消火器の使い方を一緒に勉強しました。いざというときのために、日ごろから訓練しておくことが大事なことを改めて実感しました。(M.O)

今月のワンショット



消火器で消火訓練を行った文化財防火デー